

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／世界史B】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

普通科3年で、生徒のほとんどが四年制大学への進学希望で、難関国公立大から地方私大まで幅広い。
前単元では講義や調べ学習（グループワーク）を行った。ウィーン体制、フランス二月革命と各国における影響（諸国民の春）について、地図を活用して空間的に理解することにも努めた。

2. 単元名「ビスマルク体制と東方問題（ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生）」（全4時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	諸国民の春以降のビスマルク体制の形成ほか、独、仏、伊、露、オスマン帝国などと、関連する当時の世界情勢や、それらの現代世界とのかかわりについて理解しているとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
②思考・判断・表現	諸国民の春以降のビスマルク体制の形成ほか、独、仏、伊、露、オスマン帝国などの動向に着目して、諸事象の推移、事象相互のつながり、現代とのつながりなどを視点として、関連する当時の世界情勢や、それらの現代世界とのかかわりについて多面的・多角的に考察し、表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	諸国民の春以降のヨーロッパ情勢やそれらの現代世界とのかかわりについて、見通しを持って学習に取り組もうとし、現代とのつながりなどにも関心を持ち、学習を振り返りながら課題を主体的に追究しようとしている。

4. 本時の目標（略）

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
誕生間もないドイツ帝国が、19世紀後半のヨーロッパで中心的な役割を果たしたのはなぜか？ （論述課題）

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
フランス政体の変遷 ・年表「第二共和政～第二帝政～第三共和政成立～パリ＝コミューン」 ・文章「ナポレオン3世の国内政策と海外進出、植民地政策、普仏戦争、臨時政府とパリ＝コミューン」	イタリアの統一（リソルジメント） ・年表「ウィーン体制下のイタリアの様子～イタリア王国成立、普墺戦争、普仏戦争～ローマ遷都」 ・文章「民族主義運動とサルデーニャの動向（中心人物の動き カヴール、ガリバルディ、マッツイニ）」	ドイツの統一（プロイセンの躍進と汎ゲルマン主義） ・年表「ウィーン会議～フランクフルト国民会議～普墺戦争～普仏戦争～ドイツ帝国成立」 ・文章「“鉄血演説”とビスマルク外交（国内政策、三帝同盟、ベルリン会議[1878]、三国同盟、再保障条約）」	ロシアとオスマン帝国（東方問題と汎スラヴ主義） ・年表「第2次ウィーン包囲～ウィーン会議（中略）～露土戦争[1877]～ベルリン会議」 ・文章「ロシアの改革、経済、南下政策、オスマン帝国の弱体化」
想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
生徒はナポレオン3世は当初、積極外交と産業革命進展による好景気で国内の支持を得ながらも、イタリア政策、メキシコ遠征の失敗、普仏戦争での敗北が威信の失墜、国内の混乱につながったことを理解する。	生徒はオーストリア支配に対する民族主義的な統一運動が展開されながらも、サルデーニャが各地を併合する形で統一が進むこと、イタリア王国成立や教皇領併合までにはフランス、プロイセンなどとの同盟や仲介などがあったことを理解する。	生徒はビスマルクの国内政策と外交によりプロイセンが躍進して、小ドイツ主義によるドイツ諸邦の統一が進むこと、ドイツ帝国を中心としたヨーロッパの国際秩序（ビスマルク体制）が形成されたことを理解する。	生徒は産業革命に遅れたロシアが貿易の必要性から不凍港を求めていたこと、とりわけ南下政策は、オスマン帝国の弱体化（第2次ウィーン包囲以降の中欧からの後退など）に乗じて行われたことを理解する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

単元のながれ 講義→知識構成型ジグソー法（対話と思考）→論述課題（対話と思考）

第1次（1時間）【講義】「現代ヨーロッパ諸国とその情勢の概観、2014年のロシアによるクリミア半島の併合」「ヴィクトリア時代イギリスの自由主義政策と海外進出」

第2次（2時間）知識構成型ジグソー法

【講義（15分）】「ウィーン体制とビスマルク体制の概観」

【エキスパート活動（35分）】

<エキスパート課題A>ナポレオン3世はどのような国内政策と外交を行ったか。

<エキスパート課題B>イタリア統一の中心人物は誰か。また、その選んだ理由は何か。

<エキスパート課題C>ドイツ帝国の成立過程とビスマルクの国内政策と外交はどのような経過をたどったか。

<エキスパート課題D>なぜロシアは南下政策をとったのか。

【ジグソー活動（30分）】 【クロストーク（20分）】

第3次（1時間）【論述課題（ジグソーグループで行う。提出は個人。）】

思考のプロセス（第2、3次について）

【エキスパート活動】

<エキスパートAから>国民投票で皇帝となった**ナポレオン3世**は、イギリスとの通商条約を結んで国内産業を育成した。一方、イギリスと共に、オスマン帝国を支援して**クリミア戦争**に参戦したり、プロンビエール密約によって、サルデーニャと共に、イタリア統一戦争に参戦したり、植民地政策を進めたりして、積極的な外交で対外的な地位と国内の人気を維持する政策をとったが、メキシコ遠征に失敗し、**普仏戦争**で捕虜になり敗れると、帝政は崩壊した。

<エキスパートBから>トリノやサルデーニャ島を中心としたサルデーニャ、ナポリを中心としたブルボン朝の両シチリア王国、オーストリアに支配されているロンバルディア、ローマ教皇領などとバラバラになっていたが、カルボナリの反乱、**マッツィーニ**による青年イタリアの活動とローマ共和国の成立、**ガリバルディ**による両シチリア王国の征服があった。しかし、中心的な役割を果たしたのは、サルデーニャ王国の首相**カヴール**だ。カヴールはフランスと密約を結び、強敵オーストリアをイタリア統一戦争で破り、ロンバルディアを獲得した。また、プロイセンが普墺戦争、普仏戦争に勝利したので、ヴェネツィアとローマ教皇領を獲得した。

<エキスパートCから>ウィーン体制崩壊後は小ドイツ主義によるプロイセン中心のドイツ統一の機運が高まった。ドイツ地域に産業革命の波が押し寄せると、プロイセンは**工業化**して一気に国力が増した。宰相となった**ビスマルク**は軍備を増強する**鉄血政策**をとった。デンマーク戦争で共同作戦を行い、戦力を把握していたオーストリアとの普墺戦争で、周到に準備していた普仏戦争でも勝利し、軍事的優位に立ち、領土も拡大している。プロイセン王を皇帝とするドイツ帝国を立て、1873年の**三帝同盟**でフランスを孤立させ、ヨーロッパ大陸で中心的な役割を得る。1877年のロシア＝トルコ戦争のあとの**ベルリン会議**でビスマルクが「**誠実な仲介人**」としてロシアの**南下政策**を阻止したことは、ヨーロッパの主要国には大変歓迎された。国内では、南部のカトリック教徒を弾圧したり、社会主義勢力に圧力をかけたりしたが、一方、労働者の権利保護や国内産業育成のための政策をとった。

<エキスパートDから>ロシアは他のヨーロッパの主要国に比べて、産業革命に遅れて、工業化が進んでおらず、南部ウクライナの小麦を輸出する**販路**や市場を求めている。かつて強国であったオスマン帝国も弱体化してきたので、ボスフォラス海峡、ダーダネルス海峡を通り、不凍港の黒海沿岸から直に地中海に通じる**航路の確保**、東ヨーロッパのスラヴ民族居住地域の保護国化や領土確保を狙っていた。

【ジグソー活動】【クロストーク】【論述課題】

<エキスパート資料の比較・統合の要点>フランス、イタリア、ロシアの動きのどれをとっても、ドイツが重要な役割を果たしている。対外戦争には連戦連勝しており、普墺戦争でオーストリアに、普仏戦争でフランスに勝利している。これらで**軍事的に優位**になった。特に1877年のロシア＝トルコ戦争のあとの**ベルリン会議**での**ビスマルク**が果たした仲介役は、オスマン帝国の弱体化による「**東方問題**」、ロシアの**南下政策**に苦慮していたヨーロッパの主要国には大変歓迎された。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

プロイセンは産業革命で工業化を進め、経済的に豊かになっていた。宰相になったビスマルクは鉄血政策で軍事力を高めて、プロイセン＝オーストリア戦争、プロイセン＝フランス戦争に連勝した。ヨーロッパでは軍事的に優位な立場になった。ドイツ帝国が成立すると、1873年にオーストリア、ロシアと三帝同盟を結成してフランスを孤立させ、ヨーロッパ大陸での中心的な地位を得た。ただし、ロシアに関しては、オスマン帝国の弱体化による「東方問題」、それに伴うロシアの南下政策が、ヨーロッパ大陸で大きな外交問題であった。そこで、1877年のロシア＝トルコ戦争のあとのベルリン会議でビスマルクが「誠実な仲介人」として、ロシアの南下政策を阻止した動きは、ヨーロッパ各国に大変歓迎された。このようにウィーン体制崩壊のあとのヨーロッパで、何らかの形でドイツ、ビスマルクが重要な役割を果たしている。ドイツ帝国の経済力、軍事力があつたし、ビスマルクの外交がヨーロッパ内のバランスを保つものであったので、結果として、ドイツが中心的役割を果たすことになった。